

# かのうの子



東御市立和小学校学校だより 令和4年12月号

## 2学期終業式 学校長の話 ～雪は天から送られた手紙～

明日からは冬休み。冬にちなんで、今日は、「雪」の話をしたと思います。



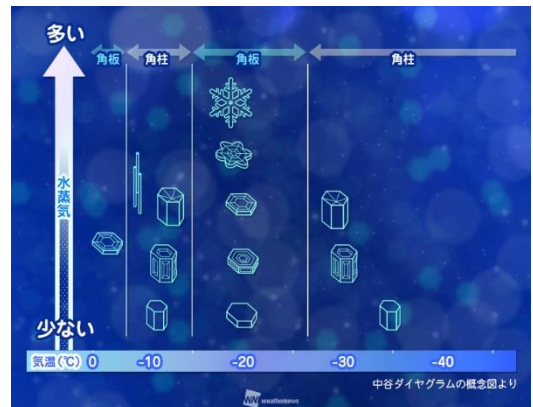
空から降ってくる「雪の結晶」には、実はひみつがあります。(結晶の絵を提示しながら)どれも、六角形がもとになっていることがわかったでしょうか。でも、ひみつはそれだけではありません。実は、雪の結晶というのは、一つとして、全く同じ形のものはないのだそうです。空の上で、雪の結晶ができるときの温度や湿度は、そのときそのときで違うので、だいたい8種類くらいの形は分けられますが、全く同じ形にはならないのだそうです。

こうした雪の結晶の研究をしたのは、中谷宇吉郎(なかやうきちろう)博士という方です。博士は、北海道で、雪のでき方の研究をコツコツと積み重ねて、世界で初めて人工の雪をつくることに成功しました。3学期になると、高学年のみなさんは、湯の丸高原にスキー教室に、1・2年生のみなさんはそり教室に行きますね。雪があまり降らない年でも、人工的に雪を降らせる機械を使って、スキーやそりが楽しめるのは、中谷博士の研究のおかげでもあるのです。

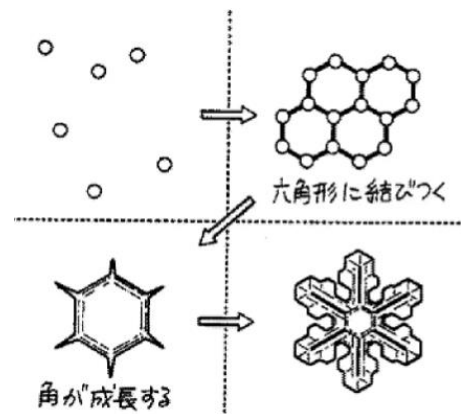
では、雪の結晶は空の上でどうやってあのような形になるのか、順番に見てみます。(図を見せながら)小さな氷の粒が、六角形に結びつきます。そのうち、結びついた六角形のカドが少しずつ成長して、このようにだんだんと雪の結晶の形になっていくのだそうです。温度や湿度によって、形は変わりますから、逆に言うと、降ってきた雪の形を見ると、そのときの空の上の温度や湿度がわかります。なので、中谷博士は「雪は天から送られた手紙です」という言葉を残しています。とてもすてきな言葉ですね。

さて、この冬休み、雪が降ったら、皆さんはきっといろいろな雪遊びや、雪かきのお手伝いもしてくれることでしょう。それとともに、ぜひ雪の結晶の観察にチャレンジして、天から送られた手紙にふれてもらえるとうれしいです。

ではみなさん、よいお年をお迎えください。



上図は、ウエザーニュース トピックスより引用  
<https://weathernews.jp/s/topics/201801/150215/>



上図は、Gakken キッズネットより転載  
<https://kids.gakken.co.jp/>

## 和小学校の「絆」を感じました～児童会企画「なかよし祭」～

11/25(金)に「なかよし祭」が行われました。祭が行われる週の月曜日には、当日が待ちきれない様子で、玄関前で検温をしていると「なかよし祭楽しみ!」「早く金曜日にならないかなあ。」という声がたくさん聞かれました。前日までにきょうだい学級のペアの友だちと話し合っ、どのアトラクションを訪れるか決めておいたので、放送による始めの会が終わると、どのペアもお目当てのアトラクションに一直線。今年は昨年度よりも30分ほど楽しめる時間を多くしましたが、どの委員会の企画もとても楽しく工夫されていて、夢中になっている間にあるという間に時間が過ぎてしまい、子どもたちは「もっと時間がほーーい!」という様子でした。10個全てのアトラクションを制覇することができなかったことに本気で悔し涙する低学年の子が見られるほどでした。



「どこから回ろうか?」とグループ会議



「色をそろえよう」  
(なかよしボランティア委員会)



「本のラベル探しゲーム」  
(図書委員会)



「ぞうきんがけハッパ」  
(清掃委員会)



「届くか!お手玉バスケット」  
(運動委員会)



「本気(マジ)のお化け屋敷」  
(放送委員会)



「見つけ出せフラワーカード!」  
(環境委員会)



「分かるかな?正しい廊下歩行クイズ」  
(運営委員会)



「目指せ全問正解!新聞クイズ迷路」  
(新聞掲示委員会)



「バイキンをやっつけろ!バイキン叩き」  
(保健委員会)



「色を合わせろ!2分クッキング」  
(給食委員会)

どんなアトラクションがあったかぜひお子さんにきいてみてください。チャレンジした後は、カードに6年生有志のみなさんの手づくり消しゴムスタンプを押してもらいました。どれも世界に一つの「超激レアスタンプ」です。そんな「スタンプ集め」も子どもたちには魅力的だったようです。たくさんの子が「ほら見て!」とカードを誇らしげに見せてくれました。



仲良く楽しむ3・4年生ペア

アトラクションを楽しむ1年生に、6年生はいつも斜め後ろから「すごいね!」「上手!」と声をかけてくれ

## 「宇宙って不思議だなあ・・・。」～小菅先生がまた来てくれました！～



12月6日、東御市教育委員会青少年教育係の小菅毅さんにご来校いただき、5年生に「宇宙のお話」をしてもらいました。6月の高原学習でも楽しく「星座」のお話をしてくれた小菅さんが再び登場してくれるということで、子どもたちは「今日はどんなお話が聞けるんだろう！」と期待MAXでした。「太陽の話」「銀河系の話」「ブラックホールの話」「もし、私たちの目が望遠鏡並みの視力を持っていたとしたら・・・の話」など、たくさんの興味深い話をしてもらいました。5年生のみんなは、新しいことを知るたびに目を星のようにキラキラさせ「そうなんだあ・・・。」と友だちと

顔を見合わせていました。45分間があっという間に過ぎていきました。

### 【子どもたちの感想より】

- ◇「地球は50億年後になくなる」という話はしょうげきでした。他にも「宇宙は広がり続けていること」や「月のクレーターのでき方」を知れて本当によかったです。
- ◇ブラックホールに吸い込まれると、0.0000・・・1mmになってしまうなんてしょうげき的でした。
- ◇肉眼で見えない星(7等星から16等星)まであることがびっくりしました。
- ◇「木星にも月みたいなやつがグルグル回っているんだな。」と初耳学でした。
- ◇星座が88個あり、宇宙にかべがあることにとてもびっくりしました。和小でやる天体観測も行きたいと思います。
- ◇地球が1円玉だとしたら月はお米粒で、太陽は大玉送りのボールの大きさということにびっくりしました。

お話の終盤に小菅さんが「もし人間の目が望遠鏡くらいの視力があつたらこう見えるんだよ。」と見せてくれた夜空は、空一面がネオンに照らされた眩しいレモン色。子どもたちからは「なんかやだよ・・・。」という声が上がりました。小菅さんが少しずつ元に戻してくれ、肉眼で見えるギリギリの6等星までの夜空にもどると「やっぱりこれくらいがいいよね～」という呟きが聞こえてきました。本当にその通りでした。「目に見えない部分があるからこそ、たくさんの想像力を働かせる楽しさや魅力がある。」そんな宇宙のロマンを感じている感性豊かな5年生でした！

## 楽しい！おいしい！様々な企画が満載！～秋の読書旬間～

11/28(月)～12/9(金)まで「読書旬間」がありました。毎日の3冊貸し出しや先生方からの本の紹介コーナー、読書チャレンジ(※様々な分類の本を借りてスタンプを集める企画)等の他、今年度は東京在住の絵本作家「はらぺこめがね」さんとの交流も行いました。7日の給食には10月に司書の先生が読み聞かせをした「はらぺこめがね」さんの著書「にくのくに」の中に出てきた給食メニューの中から子どもたちの人気No.1となった「照り焼きチキン」が提供されました。本の中のメニューが実際に目の前に登場し、子どもたちは大感激！「照り焼きチキンバーガーにしたい！」という声から主食はパンに



してもらったのですが、はさんですぐにパクツとなるのかな・・・。と思いきや「もったいないからチキンは一番最後までとってお

くんだ。」という子が多かったです。普段から読書好きの和っ子たちですが、旬間中はさらにたくさんの子もたちが図書袋を肩にかけ

ていました。移動中や順番待ちをしているときは、腰を折り曲げたり、床に膝をついたりして1年生と目線の高さを合わせて微笑んだり、思いを聞いたりしてくれていました。背中のおおきさの違ひだけでなく、かかわり方を見ても「まるで親子みたい…」と感じるほどでした。

5年生は、委員さんの説明でアトラクションのやり方がわかった時は2年生に「先にやっいていいよ！」とゆずってていました。2年生の表情から「やり方がよくわからない…」という不安な気持ちを感じると「ぼくが挑戦してみるから見ててね！」「私が先にやっいてみるからね！」と2年生の不安を取り除いてていました。優しくて頼りになる5年生と2年生のペアやグループはきょうだいのように見えました。

3年生と4年生のペアは2人仲良く並んで歩きながら「楽しかったね！次どれだっけ？」と1枚のスタンプカードを覗き込み「あー、こっちこっち！」「わかった。早く行こうよ！」と仲良く廊下を歩いて移動してました。アトラクションに到着すると「ねえ、どっちが先にやる？」「うーん…。」「そうだ！最初はグー、ジャンケンボン！」といった様子で、仲よし同級生のように見えました。

今回のなかよし祭では、誰一人、ペアとはぐれて迷子になる子やペアと離れて自分だけで行動する子が見られませんでした。（\*これまでいくつもの学校で「児童会祭」を経験してきましたが、必ずペアとはぐれて泣いてる子や単独で動いてしまう子を見かけることがありました。）「なかよし旬間」で学んだことが「相手を大切にる気持ち」を育み、和小的子どもたちの「絆」がより深まったことを感じました。

### 質の高い「楽しさ」～児童会活動を通して成長していく高学年～

なかよし祭に向けての取り組みを始めた10月、正副委員長さんたちと1つだけ約束をしました。「それぞれの委員会の活動に関係のあるアトラクションにすること」です。職員は「子どもたちが『やっいてみたい！』と思っただけで実現できるように協力する」というスタンスで相談に乗ったり手伝ったりしてました。当日までの準備に加え、訪れるたくさんのお客さんに対応するのはとても大変だったでしょう。けれど、祭の後、休み時間を使って急いで片づけをする5・6年生の表情には満足感が溢れてました。自分たちのアイデアを実現できたこと、そして、自分たちが一生懸命準備したアトラクションを目一杯楽しんでてくれる和小的友だちの表情や姿を見られたこと、それが当日までの苦勞や当日の疲れ以上の大きな喜びとなったようです。5・6年生の子に聞いても返ってくる答えは「疲れたけどすごく楽しかった！」「忙しかったけどとても楽しかった！」でした。児童会の中心として学校を支える立場だからこそ感じられる「楽しさ」です。それを感じててくれる子どもたちの成長をとても嬉しく思いました。

### 友だちと目一杯楽しんでます！～1～4年集団遊び・集団活動の時間「和く和くタイム」～

11月末のある朝のことです。何となくいつもより元気がない高学年の女の子に声をかけました。「今週は水曜日（勤勞感謝の日）休みだよ。元気出そうよ！」すると「せっかく『和く和く』があるのに、休みなんでもん…」という返答が。元気がない理由がわかりました。今年度水曜日の清掃をなくして設定した「和く和くタイム」は、1週間の中で1番子どもたちの楽しそうな声が響く時間です。



7日（水）に2学期最後の「和く和くタイム」がありました。体育館でドッジボールやしっぽとりをして汗だくになっている学級、みんなで大縄の練習をする学年など活動は様々でした。全ての学級が校庭や体育館を使うことは難しいので、室内で楽しんでいる学級も観られます。この日は視聴覚室で4松の皆さんが「頭上注意の命令ゲーム」をしていました。ジャンケンをして勝ったら対戦相手に「右へ大

きく3歩進んでください。」といった命令をします。たとえジャンケンに負けても頭の上の本を落とさずにミッションをやり遂げればセーフ。対戦する子どもたちは真剣そのもの、見ているみんなはハラハラドキドキ。成功すれば「すごい！」とみんなで拍手、失敗しても「あー、おいしい！」と温かな労いの声。どちらが勝っても負けても目を輝かせて大盛り上がりでした。狭い場所でも、ちょっとした工夫で楽しめる。それはやっぱり友だちがいるからです。「和く和くタイム」は子どもたち自身が「友だちの存在の大切さ」を実感できる素敵な時間になっています。



友だちと競い合うかのように図書館に足早に向かう姿がたくさん見られ微笑ましかったです。1日と5日には親子文庫の皆さんに来校していただき、読み聞かせをしてもらいました。新型コロナウイルス感染防止のため、読み聞かせする日を限定し、様々な形で工夫して対応していただきました。



5年生は自作の大型絵本の読み聞かせでした。迫力満点！

2年生は視聴覚室で聞きました。三味線の弾き語りもありました！

4年生にはオンラインで。その後、3年教室で読み聞かせをしてもらいました。

読み聞かせ中のしっとりとした教室の空気、同じ方向を見つめる子どもたちの澄んだ瞳、やっぱり本に浸るのって素晴らしいなと感じました。親子文庫の皆様ありがとうございました！

## こちらも祭いだ祭いだ！～和小的みんなに楽しんでもらおう～



4竹のみなさんが総合的な学習の時間に「4竹フェスティバル」の活動に取り組んでいます。お祭りには定番の「くじ引き」は、普通のおみくじだけでなく、玉が出てくる福引き風、紐を引くタイプの3種類があります。射的は精巧に作られた割り箸鉄砲で的を狙うので、たとえ当たらなくても気分は「スナイパー」。材料をたくさん集めてつくった「お化け屋敷」は入り口のトンネルを抜けて中に入ると真っ暗闇。「この先、何が起きるんだろう…。」と足を進めるのに躊躇してしまいます。「スーパーボールすくい」も大人気。「全て手づくり」という約束で、「ポイ」もほどよい難しさを研究した手作り品。さらに、ボールの浮く池は水流あり。ねらったボールが手元に来るチャンスは一瞬。来店した子どもたちはいつの間にか真剣そのもの。おしゃべり自然消滅です。祭りのクライマックスは4竹の全員による盛大な「打ち上げ花火ショー」です。参加してくれた友だちと一緒に「5・4・3・2・1・0！」とカウントダウンをすると、視聴覚室中に紙吹雪が舞います。どの子も両手を高く伸ばして大喜び。すでに1～3年生を順番に招待して「フェスティバル」が開かれましたが、参加した子はみんな大満足。お土産も両手一杯ニコニコ顔でした。

とっても楽しいフェスティバルですが、祭りの後は次のお客さんの来場に間に合うように

必死に紙吹雪の片付けや清掃と開店の準備をする4竹のみなさんの姿がありました。イベントを進めていく上ではたくさんの苦労がありますが、なかよし祭での5・6年生の姿から学んだことや楽しそうな友だちの顔を見ることが、やる気とパワーにつながっているようでした。まだまだ、フェスティバルは続きます。明るく元気な呼び込みの声やフェスティバルを楽しむ子どもたちの声が寒さを忘れさせてくれそうです。

打ち上げ花火の後は、紙吹雪が床を埋め尽くします。じゅうたんなので、ほうきではうまく集められず、4竹のみなさんが四つん這いになって必死で回収。時間との闘いです。



## 金賞受賞おめでとう！

5年松組の山崎葉尋<sup>はつね</sup>さんの作品が「小さな親切作文コンクール」で金賞を受賞しました。金賞になる作品はごくわずかなので、先月関係者の方が学校を訪れ、直接表彰状と記念品が手渡されました。葉尋さんの作文は、学校生活の中で心が揺れ動いたある出来事をテーマにした心温まる作品です。紹介します。



「なぜ行けないの・・・」

ある日、私はこんなことを体験しました。1人の友達が筆箱を落としてしまったのです。その子の席の周りや遠いところから2、3人の友達が来て拾ってあげていました。私はその時、拾いに行きませんでした。

「次はがんばろう。」と思いました。その日から少し経って、友達が筆箱を落としてしまいました。その時も拾いに行きませんでした。「何で行けないんだろう。」と考えました。考えてみると「他の人に任せれば大丈夫だろう。」と思ってしまっていたからだと思います。「次は絶対に拾いに行く！」と決めました。そこから少し経って、筆箱を落としてしまった子がいました。その時、私も拾いに行きました。落としてしまった子が「ありがとうございます。」と言ってくれました。私は「どういたしまして。」と言いました。「拾いに行ってよかったな。」と思いました。

私はこの体験をして、何かを手伝うと、手伝ってもらった人は「手伝ってくれてありがとうございます。」という気持ちになるし、手伝った人も「してよかったな。」という気持ちになると知りました。これからも自分から拾いに行くことなどをしたいと思います。

ごく当たり前に思いやりある行動がとれる和の子の心温まる姿、学校生活の中でたくさん見られています。

## 1月の予定

※年末年始休業 12月24日～1月5日

※学校リフレッシュウィーク 12月29日～1月4日

1日(日) 元日

4日(水) 和地区書き初め大会(和地区)

5日(木) 学校集金口座振替日

6日(金) 3学期始業式 安全点検日  
4時間授業(下校 14:00)

9日(月) 成人の日

10日(火) 校内書き初め展(～20日)

11日(水) ショート避難訓練

12日(木) 2年そり・3年スケート教室  
児童会①

13日(金) 幼保小連絡会

17日(火) スクールカウンセラー来校日

18日(水) 放課後元気塾

20日(金) 1年そり・456年スキー教室

21日(土) 管楽器アンサンブル交歓会

23日(月) 学校給食週間(～27日)

\*\*\*\*\*

和小学校では、職員一人一人の授業力向上のために、「一人一公開授業」というものにとりくんでいます。過日は、理科専科の職員が、5年生の電磁石の単元を公開しました。銅線に電気が通ると磁力を帯びることを、様々な実験を通して学んできた子どもたちが、これまでの学習を根拠に原始的なモーターづくりに挑戦する授業でした。子どもたちは班の友達と協力し、試行錯誤しながら、与えられた材料から考えて回路をつくり、結果的に、どの班も見事にモーターを完成させました。

今、学校の授業では、これからの社会に必要な資質能力を確実に身につけるための「主体的・対話的で、深い学び」が求められています。そのため、まず職員が「主体的・対話的」に、深く学び合える集団でありたいと思っています。

年末となりました。和地区の皆様にとって来る年がよい年でありますようにお祈りいたします。

文責・作成：校長 教頭